

部長	課長	係長	両 係

令和元年度 第1回碧南市環境審議会 会議録

日 時 令和元年10月7日（月）午後1時30分～午後2時35分

場 所 碧南市役所 2階 会議室1

出席者 鈴木 並生、加藤 丈博、樺山 朋久、林 俊行、磯貝 暢宏、黒田 昌司、
水野 博史、加藤 浩孝、鈴木 計彦、永坂 幸子、竹原 幸子、
熊田 圭爾、稲垣 孝臣、岩田 忠造、河隈 孝之、松井 高善、
加藤 正勝

欠席者 奥村 晋平、平松 常一、宮崎 哲也 （20名中17名出席）

事務局 永坂 智徳、金原 厚夫、澤田 貫、山田 光則、白井 寛人

傍聴者 なし

1 あいさつ

(1) 市長あいさつ

(2) 会長あいさつ

2 議 題

(1) 平成30年度における環境の状況について（報告）

【環境の状況に関する報告書 P.4～25】

ア 大気の概要

(ア) 二酸化窒素（NO₂）、浮遊粒子状物質（SPM）

西端大気汚染測定所で測定した結果、環境基準に適合し、ほぼ横ばいの状況で推移している。

(イ) 大気中ダイオキシン

市役所駐車場にて測定した結果、環境基準に適合し、ほぼ横ばいの状況で推移している。

イ 水質の概要

(ア) 河川のBOD

環境基準に適合している。

(イ) 湖沼（油ヶ淵）のCOD

環境基準には適合していない。生活排水の流入や閉鎖性水域のため、水の汚れが滞留しやすいことが原因として考えられる。

(ウ) 海域（衣浦湾）のCOD

環境基準に適合している。

ウ 騒音・振動の概要

(ア) 環境騒音

市内8箇所にて測定した結果、全調査地点で環境基準に適合している。

(イ) 自動車騒音

概ね5年間で市内10地点を測定しており、約99%の地点で環境基準以下、全ての地点で要請限度基準以下だった。

エ 公害苦情の概要

平成30年度で67件の苦情があった。大気汚染に分類される野焼きが多く、約半数占めている。また、製造業、建設業等の事業所活動に伴う騒音や近隣住宅からの騒音苦情等もある。

質疑応答

委員 E： 75%水質値という言葉は初めて聞いたが、今までも同じ指標を使っていたのか。

事務局： 今までも同じものを使っている。

委員 F： 環境の状況に関する報告書P.12の油ヶ淵のCODの高さが平成30年度だけ飛びぬけて高いが、要因は何か。

事務局： 去年は気温が高かった影響で、COD濃度が上昇した可能性がある。

(2) 平成30年度第2次碧南市環境基本計画の進捗状況について（報告）

平成26年3月に第2次碧南市環境基本計画を策定した。率先して取り組むべき施策を17のリーディングプロジェクトとしてまとめ、活動している。昨年度取り組んだ主な事業は以下のとおり。

ア 自然環境の保全

(ア) 水路・河川浄化プロジェクト

へきなん市民環境会議による流域モニタリング調査、環境課による水質の環境監視、女性団体の協力による廃食用油回収等を実施している。

(イ) よみがえれ油ヶ淵プロジェクト

学校、市民団体、周辺住民等による油ヶ淵の環境モニタリングや周辺清掃を実施している。また、愛知県と油ヶ淵周辺4市で構成される油ヶ淵水質浄化促進協議会において、油ヶ淵浄化デーやアクション油ヶ淵を開催している。

(ウ) 外来種駆除推進プロジェクト

碧南高校、へきなん市民環境会議と協力し、オオキンケイギク駆除活動を実施している。

イ まちづくり

(ア) おとましい(勿体ない)推進プロジェクト

各種イベント会場において、へきなん市民環境会議により食品ロス削減に向けた啓発活動などを実施した。

(イ) その他、まちづくりに関する活動

春の清掃週間及び秋のクリーンピーとして、市民・各種団体とともに清掃活動を実施し、街の美化を啓発した。

ウ ひとづくり

(ア) 環境リーダー養成プロジェクト

率先して環境活動に取り組む人材育成のため、へきなん市民環境会議の企画・運営による自然観察会等を実施した。

(イ) みんなでやろまい7万人の「私の環境宣言」プロジェクト

自分ができる「環境に優しいこと」を宣言し、実行してもらう取り組みを行っている。平成30年度末登録者数は、27,769人。

エ 循環

(ア) 再生可能エネルギー利活用推進プロジェクト
スマートハウス設備設置費補助を実施した。

(イ) 天の恵み 雨水利用プロジェクト

例年、元気ッス！へきなんにて雨水を利用した打ち水を実施しているが、昨年度は元気ッス！へきなんが台風で中止となったため、実施できなかった。

オ 温室効果ガス削減量の現況と推移

平成29年度の碧南市温室効果ガス排出量は1,256千t-CO₂で、平成20年度対比5.5%の減少となった。

今後も碧南市地球温暖化対策実行計画に基づき対策をすすめる。

カ スマートハウス設備設置費補助

平成30年度は、太陽光125件、燃料電池9件、蓄電池43件、次世代自動車充給電設備0件、エネルギー管理システム36件の合計213件、2,487万円の補助を実施した。

今後もリーディングプロジェクトの推進を、市民・事業者・行政の三者協働の下に取り組み、事業を着実に実行していく。

質疑応答

委員 M： 環境の状況に関する報告書P.37の3の地球温暖化防止に向けた主な取り組みを行うことで何%ほどCO₂を削減できるのか。この取り組みが100%達成できたときに短期目標と中期目標それぞれの温室効果ガス排出量削減目標を達成することができるのか。

事務局： 市民や行政に環境意識を根付かせるための取り組みであり、こうした啓発活動を通して少しずつでもCO₂の削減につながればと考えている。実際の数値に関しては市内の企業の事業活動によって現れる数値を基にして計算し、排出量を決めている。啓発活動1件につき何%削減できるかという算出方法ではないのでご理解いただけたらと思う。

委員 M： こうした啓発活動で削減できるCO₂の計算を実際にやったとしても1～2%程度だろう。主なCO₂の排出源は産業部門であるので、産業部門へどのように働きかけていくのかが大事である。現在、産業部門に行ってい

る働きかけはあるのか。目標を周知しているだけではないのか。

事務局： 臨海部の事業所には公害防止協定を締結するなどの対応を現在は行っている。

委員 M： 公害防止協定とCO₂削減はイコールではない。市がCO₂削減を目標に立てるのであればそれぞれの業界や個々の企業に対して何らかの働きかけを図っていかないと実現はできないと考える。

また、CO₂削減という意味で電気自動車はなぜカーボンフリーと言えるのか。燃料として使用する電気を発電する際にCO₂が発生しているのであればカーボンフリーとは言えない。都合のいい部分だけで目標設定や話をしてはいけない。

事務局： 市単位では啓発活動が主になるが、様々な機会で積極的にやっていきたいと思う。

委員 R： 碧南市として数値を測るだけでなく、どういうアクションをしていくのかが公害、環境問題をなくす上では大事なことだろう。

事務局： 後ほど説明する予定だったが、現在、碧南市では第2次碧南市環境基本計画の改定作業を行っている。こうした意見を反映させて改定を進めて参りたい。

3 その他

碧南市環境基本計画の改定スケジュール報告について

令和元年度から令和2年度にかけて碧南市環境基本計画の改定を行っている。今回の改定では環境基本計画に地球温暖化対策実行計画（区域施策編）と生物多様性地域戦略を内包し、碧南市の環境保全に関する施策を総合的に推進するための基本計画として改定する。

令和2年10月頃を予定している環境審議会で計画の素案を事務局から報告、令和3年3月を予定している環境審議会で諮問、答申をお願いしたい。

4 議題以外の質疑応答

委員 F： 碧南市災害廃棄物処理計画について、膨大な廃棄物がでたときの一時仮置き場は確保できているのか。処理計画ではどのように示されているのか。

事務局： 一時仮置き場については決めてはいない。災害の規模に応じてその時々で決める予定である。災害発生時の道路状況や運搬可能な場所であるのかを判断して対応したい。

災害発生後2、3日経過すると廃棄物が発生するだろうと予想される。その間に環境課で市内に収集可能な業者がいるのか、収集可能なのか、場合によっては市外の業者や自衛隊に要請して収集運搬できるのか、そういった様々な情報を収集する。その情報収集の結果、市民の皆様はどこを一時仮置き場とするのか、そこまでは収集運搬可能な道路状況なのか、どのように廃棄物を出してもらおうのかという情報提供をしてから、廃棄物を収集する計画となっている。そのため、一時仮置き場がどこになるのかということを経段階ではお伝えすることができない。状況に応じての対応となってしまう。

委員 F： 災害は突然起きるものなので、市民への伝達などに関して不安は感じている。

事務局： 環境課として万全を期するように対応していきたい。また、有事の時にでも大まかなごみの分別は求めていきたいと考えている。今後、市民に対してそれらの周知や意識付けも進めていきたい。

委員 R： 都市計画をしていく際にそういった問題に対処する場所もつくっていかねばいけない。

委員 H： 今後、関係機関との連携強化のため、職員の体制についても強化してまいりたいと考えている。災害廃棄物だけでなく、発生する様々な問題に対処していきたい。

委員 B： 今の分別が理想的なのか。分別する量を少なくすることはできるのか。

事務局： 現在20種類ほどの分別を実施している。以前は30種類ほどに分けていただいていたが、一緒にしても行き先が同じになるものは同じにしている。売却、引き取り、資源化で分別している。そのため、現在の分別の品目数は適当であると考えている。

委員 R： 資源ごみステーションの駐車場所がない。資源ごみステーションが合併し、数が減少しており、ステーションまで距離があると車でごみを持ってくる人も多い。駐車場があるようなステーションならよいが、ないところ

はごみ出しが大変である。CO₂の排出にもつながる。ごみ出しの回数、分別の仕方と合わせて、近所で収集できるように方式を考える必要がある。

委員 R： 海洋汚染が問題となっている。碧南市として海洋汚染への対策は何か行っているか。

事務局： 国レベルでの情報は流れてくるが、市としての対応は難しい部分がある。漁協を含めて清掃活動や海洋清掃船で海の清掃は行われている。一個人のポイ捨ての結果、川から海へごみが流れていくこともあるので、ポイ捨てされないように街全体の環境美化を進めていきたい。現時点では市として具体的に議論はしていない。

委員 R： 碧南市独自として紙ストローの作成等の対応をしないのか。

事務局： ご意見としていただいて、できる企業に協力を仰ぐ等、考えていきたい。

委員 R： 企業はプラスチックごみなど産廃業者に集めてもらっているので、この問題は生活に関わる内容が大きいように思う。

事務局： 製造業の事業所には努力していただいているが、小売業などからの排出が多いと考えている。